

納涼祭

今年は飲食の提供が復活となりました。患者さまご家族の皆さまのたくさんの満面の笑みと「楽しかったよ!」「ありがとう!」という温かいお言葉でいっぱいに包まれました。お祭りの雰囲気を楽しまれるご様子を拝見し、スタッフ一同、胸が熱くなるような温かい時間を過ごさせていただきました。

ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました!これからも当院は、リハビリはもちろん、季節の感動と笑顔があふれる時間を大切に歩んでまいります。



入院患者さまを対象に「秋祭り」を開催

昨年に続き恒例行事として、入院患者さまを対象に「秋祭り」を開催しました。当日はご家族も含め200名を超える方々にご参加いただき、会場は大いに盛り上がりしました。ピンポン玉入れやパターゴルフ、ポッチャ、射的、金魚すくい、ハンドベルの演奏があり、皆さまの笑顔や歓声があふれ、秋のひとときを楽しく過ごしていただくことができました。



船橋市リハビリセンター公式LINEをご存じですか?

船橋市リハビリセンターでは、公式LINEを活用し、地域の皆さまの健康づくりや生活に役立つ情報を発信しています。

自宅でする簡単な体操や健康・介護に関する情報、センターのイベントや地域活動のお知らせなど、日々の暮らしに役立つ情報をお届けしています。

ぜひ公式LINEにご登録いただき、健康づくりにお役立てください!

船橋市リハビリセンター
LINE
公式アカウント



通所リハビリテーション 1日・半日コース 納涼祭の開催!

1日コース(8/3~7)・半日コース(8/8~14)にて納涼祭が開催され、今年もにぎやかで笑顔があふれる思い出となりました。通所スタッフが皆で盛り上がるように考えた出し物には、子供の頃に夢中になって遊んだ『的あて』『金魚すくい』や、会場が一体となって楽しめる『風船バレー』、またモグラたたきならぬ『ジョーズたたき』やコップを積み上げて高さを競う『スカイツリー』などオリジナルゲームもあり、皆さま声を上げて楽しんでおりました。おやつには夏をイメージしたアイス、美味しいみたらし団子と餡子団子に舌鼓をうちました。お祭りの写真には皆さまの笑顔あふれる素敵な思い出が集まっています。



「当事者の声を聴く」

今回、ALSを発症した当事者の方をお招きして、直接お話を伺う機会がありました。病気について知るだけでなく、その方が歩んできた人生や思いに触れる時間となり、支援者として何ができるのか、また「支えること・支えられること」の意味について考える貴重な機会となりました。病気だけを見るのではなく、当事者だからこそ伝えられる思いや、これまでの経験に触れることで、その人らしい生活を支えるために何ができるのかを考えるきっかけとなりました。



季刊情報誌「輝NET」編集・発行 医療法人社団 輝生会 法人本部/〒151-0071 東京都渋谷区本町3-52-6 京西ビル2階 <https://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3 TEL.03-5365-8500 <https://www.hatsudai-reha.or.jp>

船橋市立リハビリテーション病院 〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1 TEL.047-439-1200 <https://www.funabashi-reha.com>

船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL.047-468-2001 <https://www.funabashi-rehacen.com>

在宅総合ケアセンター元浅草 〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17 TEL.03-5828-8031 <https://www.motoasakusa-reha.com>

在宅総合ケアセンター成城 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7 TEL.03-5429-2292 <https://www.seijo-reha.com>



kisei・kai
情報誌



2025年度 クリニカルインディケーターについて

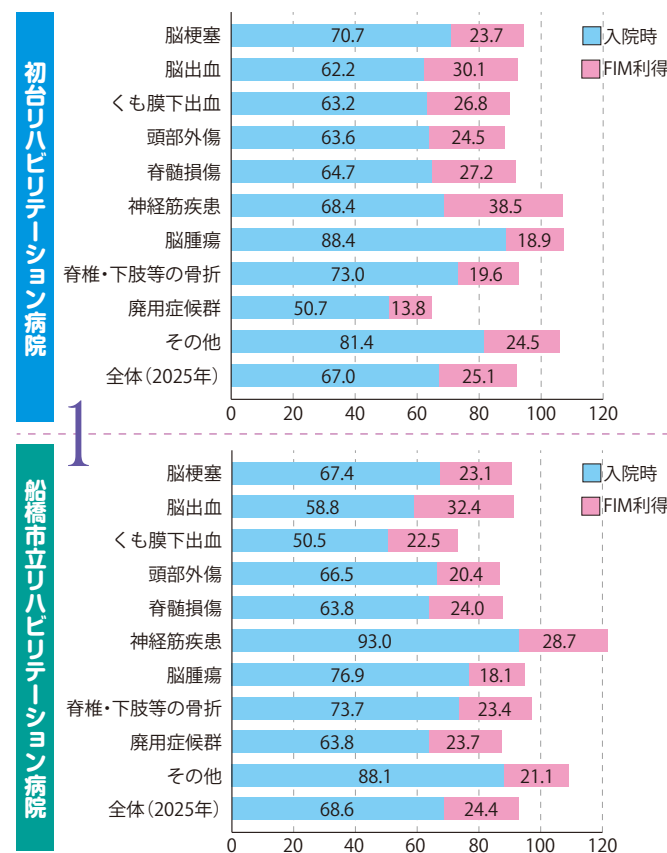
初台リハビリテーション病院、船橋市立リハビリテーション病院の「2025年度クリニカルインディケーター」を、ホームページに公開しました。クリニカルインディケーターの指標のうち以下の2つについて、2025年度の結果に基づきご説明いたします。

1【ADLの改善(FIM利得)】

FIMとは、日常生活の自立度を示した指標です。数字が高いほど自立していることになります。入院時と退院時のFIMの差を「FIM利得」といい、数字の差が大きいほど改善されたことになります。

$$\text{FIM利得} = \text{退院時FIM} - \text{入院時FIM}$$

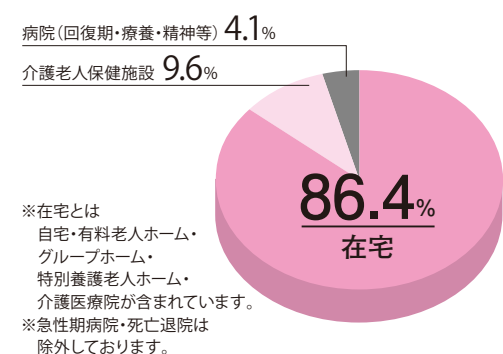
2025年度 FIM利得の結果は、平均で初台リハビリテーション病院は25.1点、船橋市立リハビリテーション病院は24.4点となりました。



2【最終退院先(在宅復帰率)】

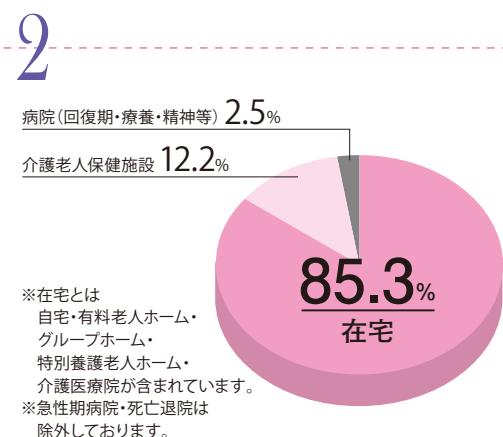
入院した患者さまが、当院でリハビリテーションを受けた後、退院された先を表したグラフになります。回復期リハビリテーション病棟は、厚生労働省の基準において、退院先が自宅(有料老人ホームなども含む)の割合が7割以上であることと定められています。回復期リハビリテーション病棟では、在宅復帰は大きな使命となります。

$$\text{在宅復帰率} = \frac{\text{自宅(有料老人ホームなども含む)}}{\text{2025年度に退院された全患者}}$$



詳細の転帰先データはこちらのQRコードで確認できます。是非ご覧ください。

毎年実績データを公開することで、患者さま・ご家族さまの信頼に繋がればと考えており、医療の質改善・向上を目指しております。



輝生会の
基本理念と方針

- 「人間の尊厳」の保持
- 「主体性・自己決定権」の尊重
- 「地域リハビリテーション」の推進
- 「情報」の開示
- 「ノーマライゼーション」の実現

輝生会における
患者さまの権利

- 人権を尊重される権利
- 最善の医療を受ける権利
- 自らの意思で選択・決定する権利
- プライバシーの保護を求める権利
- 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利

地域により近い訪問リハビリテーションを目指して ― 千歳烏山サテライト開設に向けて ―

現在、当法人では「訪問リハビリテーションサテライトプロジェクト」が進んでおります。

背景には、当法人の回復期リハビリテーション病棟を退院される方々の居住地は広い範囲にわたりますが、退院後も継続してリハビリテーションを必要とする方に対し、居住地によっては十分なフォローが難しいという課題がありました。

また、在宅総合ケアセンター成城の訪問リハビリテーションは、年々利用者数が増加していますが、利用者さま宅への移動距離が長くなることは限られた時間の中でより多くの地域の方を支援していく上での課題にもなっていました。

そこで、利用者さまへのアクセスをより良くするとともに、職員の移動負担を軽減し、地域に根差した訪問リハビリテーションをさらに充実させるため、新たな拠点の検討を進めてきました。そしてこのたび、千歳烏山駅からほど近い場所にサテライト拠点を開設することとなりました。

訪問リハビリテーションは、単に身体機能を改善するだけのサービスではなく、「その人が自分らしく暮らすために、その人が生活する地域に出向き、リハビリテーションの立場から行う支援」です。

実際の生活の場に何うことで、身体機能だけではなく、ご本人の生活環境やご家族との関係、地域での役割、日々の生活で大切にしていることなどを知ることができます。そして、ご本人・ご家族への直接的な支援だけでなく、医師や看護師、ケアマネジャー、介護職等の関係職種と情報を共有しながら、一緒に生活を支えていくことが重要です。

そのため、新しいサテライトを単なる「訪問リハの事務所」とするのではなく、これからその地域で暮らす方々や、地域で活動するさまざまな専門職・関係機関とのつながりを築く拠点にしていきたいと考えています。

在宅総合ケアセンター成城がある世田谷区では今後も高齢者人口の増加が見込まれており、2040 年に向けて在宅生活を支えるサービスの充実が求められています。こうした地域の変化に対して、私たちも地域のニーズや一人ひとりの「こう暮らしたい」という希望に応えられる体制を整えていく必要があります。

これまで、法人内の他拠点の見学、各種届出の変更、物件の選定・契約、設備の整備、必要物品の準備、部署内でのグループワークなど、一つひとつ準備を進めてきました。

現在は正式な届出等の手続きを進めていますが、建物や設備の準備は整いつつあり、すでに一部を職員の休憩スペースとして活用しています。

法人が掲げる「地域リハビリテーションの推進」「ノーマライゼーションの実現」という目的のもと、地域により近い場所から、その人らしい暮らしを支える訪問リハビリテーションを実践していきたいと思います。

新しい地域での出会いやつながりを大切にしながら、地域の皆さまに必要とされる拠点となれるよう、職員一同、2026年内開設に向けて準備を進めてまいります。

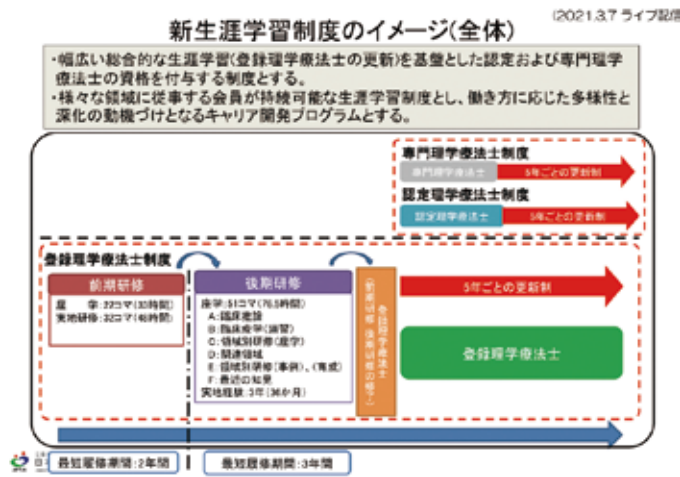


在宅総合ケアセンター成城 訪問リハ マネジャー 岩熊晋平

輝生会から広げる、理学療法士の学び ― 臨床認定カリキュラムの取り組み ―

輝生会では2022年度から、日本理学療法士協会の認定理学療法士取得に必要となる「臨床認定カリキュラム」を開講しています。

認定理学療法士は、特定の分野において専門的な臨床技能を有する理学療法士として、日本理学療法士協会が認定する資格です。現在、脳卒中、運動器、地域理学療法、管理・運営など22の認定分野が設けられています。輝生会でも多くの理学療法士が資格取得に取り組んでおり、現在、法人内には延べ43名の認定理学療法士が在籍しています。



【図1 生涯学習制度のイメージ(全体)】

認定理学療法士を取得するためには、指定研修カリキュラム、臨床認定カリキュラム、日本理学療法学会研修大会への参加の要件を満たし、認定試験に合格する必要があります。このうち、臨床認定カリキュラムは、協会から認定された教育機関が開講する仕組みとなっています。



【図2 認定理学療法士の取得】

輝生会は、この「臨床認定カリキュラム」を提供する教育機関の一つです。2022年度に「脳卒中」と「地域理学療法」の2分野でスタートし、2024年度からは全国からより受講しやすいようオンデマンド形式へ変更しました。さらに2026年度から「管理・運営」を加え、現在は3分野を運営しています。今年度は9月20日時点で、脳卒中50名、地域理学療法28名、管理・運営78名、計156名の方から申し込みをいただき、全国の理学療法士に受講いただく教育の場へと広がっています。

この取り組みで大切にしていることのひとつが、「輝生会の中にある経験や知識を、教育につなげる」ことです。

現在、3分野の講義を担当している講師は、すべて輝生会で現在勤務しているスタッフ、または以前勤務していたスタッフです。理学療法士だけでなく、医師をはじめ、それぞれの分野で専門性を培ってきたスタッフが講師を務めています。

輝生会には、回復期リハビリテーション病棟から、外来、訪問、通所などの生活期リハビリテーションまで、患者さま・利用者さまの生活を長期的に支えるさまざまな実践の場があります。また、臨床だけでなく、スタッフ教育や組織の管理・運営など、それぞれの立場で積み重ねてきた経験があります。こうした日々の実践の中にある知識や経験を整理し、「伝えられる形」にして次の理学療法士へつないでいくことも、法人でカリキュラムを運営する大きな意味だと考えています。

そして、講師を担当することは、教える側にとっても学びの機会になります。自らの臨床や教育、管理・運営を振り返り、根拠を確認し、言葉にして伝える。その過程は、自分自身の実践を見直す機会にもなります。

「学ぶ人」だけでなく、「教える人」も成長する。そこで得られた学びが再び日々の臨床や組織に還元されていく。そんな循環をつくることで、認定資格を取得するための研修だけにとどまらない取り組みにしていきたいと考えています。

これまで輝生会で培ってきたものを、法人の中だけにとどめず、次の世代、そして法人外へ。これからも、輝生会だからこそ提供できる学びの場を、皆さんとともにつくっていきたいと思います。

図1・図2の出具：公益社団法人日本理学療法士協会「認定理学療法士制度・専門理学療法士制度」

医療法人社団輝生会 本部 生活期支援部 マネジャー 野口隆太郎